

全日本写真連盟広島県本部 「2021秋心おと広島コンテスト」審査結果



主催 全日本写真連盟広島県本部
応募者数 48人
応募点数 178点
審査・講評 関西本部委員 清水 直行

推薦

「紅葉今昔」 松岡 良尊 (広島支部)
虫垂衣(むしたれぎぬ)を垂らした市女笠(いちめがさ)の旅装束で女性たちは何を話しているのでしょうか。主のお供で紅葉狩りに行くのでしょうか？奥には鹿が草を食べている長閑な秋の一コマが添えられています。今も昔も変わらぬ秋のワンシーンが上手く表現されています。

特選



「秋景」 安田 慶子(広島タウン支部)
遠景に雲海を配し、手前のコスモス群を幻想的に仕上げ、秋を表現した描写力は素晴らしいです。雲海の作品は数多く見ますが、この作品は作者自身の自己表現ができています。



「対決」 宮田 順正(フォトプラス支部)
雌鹿二頭が立ち上がったところを、奥の小鹿は驚いたのか前足が奇妙な形になっています。写真ならではの瞬間を捉えた作品です。バックは葉の色を生かしながら黒く落とすことで鹿を際立たせています。いらだつ鹿の繁殖期で秋が表現されています。

準特選



「暁光」 上瀬 繁(フォトシャッセ支部)



「やまなみのホツツジ」
和泉 鉄美(佐伯支部)



「宣言解除後」
宇都宮 雅江
(フォトシャッセ支部)

入選



「深秋の湖水」
荒川 純一(佐伯支部)



「霧森に迫る」
諸富 誠(佐伯支部)



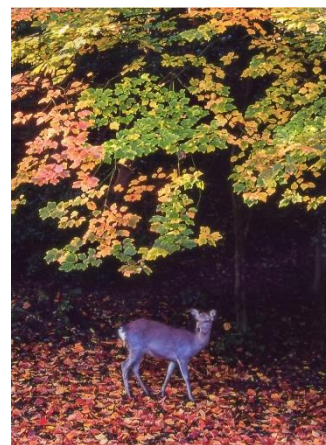
「秋色」
瀬尾 清(フォトプラス支部)



「父子で野焼き」
奥本 泰久(東広島支部)



「川辺に秋」
西川 正治(東広島支部)



「秋高し日」
朝枝 加津子(フォトシャッセ支部)



「赤いお庭」
道下 久登(フォトシャッセ支部)



「シャッターチャンス」
原田 今朝弘(デジタル広島支部)



「クライマックス」
三戸 元子(フォトジェンヌ支部)



「新世界」
平川 龍彦(尾道支部)